

事業報告書

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第I事業 大学間連携事業				
2. 事業名	単位互換（産学連携科目）				
3. 事業趣旨	加盟大学の正規科目を単位互換科目として提供し、学生が大学の枠を超えて受講・単位取得できる、2008年4月より開始した制度であり、本年度は、読売新聞社提携講座として明星大学（前期）、中央大学（後期）として実施（それぞれ15回講義）した。				
4. 事業内容・実績	<p>【実施内容】 本年度、読売新聞社提携講座として明星大学（前期）、中央大学（後期）にて実施。</p> <p>前期：明星大学 「現役記者が教える英字新聞のツボ」 受講者数：32名（明星大学29名、実践女子大学2名、多摩大学1名） 講座概略（全15回） ◆見出しの英語◆リードの機能◆発生モノの記事◆犯罪事件の英語◆経済ニュースその1◆経済ニュースその2◆これまでの補足/中間試験◆国際ニュースを読むその1◆国際ニュースを読むその2◆グループワーク（プレゼンテーション準備）◆グループワーク（プレゼンテーション実施）◆国会の仕事◆「官邸」という空間◆DVDで学ぶ政治◆期末試験</p> <p>後期：中央大学 「現代社会と新聞」 受講者数：106名（中央大学生：95名、他大学生：7名） 講座概略（全15回） ◆オリエンテーション◆ジャーナリズム総論◆安倍政権下の政治報道◆経済報道の現状と課題◆事件報道と調査報道◆国際報道から考える◆科学報道のいま◆わかりやすい医療記事について◆社説について◆暮らし面のこれまで・これから◆社会保障制度の問題点を考える◆沖縄問題を考える◆新聞のデジタル戦略～新聞社のサービスからみる◆ディスカッション～現代社会と新聞について考える◆まとめ</p>				
5. 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・明星大学の講座については英字新聞を購入する必要があり強い受講意思の学生に限られるため、相当する受講者数となっている。 ・より受講者を増やすために、来年度に向けて担当教員、読売新聞関係者、明星大学事務局、ネットワーク多摩事務局で大幅な改善案を策定済みである。 ・中央大学の講座については担当教員より十分な成果ありとの報告を受けている。 ・同受講生からは、新聞社内部の知見、現場記者の見解などを知る機会として、非常に関心を持たれている。 ・中央大学については他大学からの学生参加を増やすため、魅力ある講義である旨の教員コメントをネットワーク多摩広報誌に掲載した。（広報誌5号） 				
6. 執行体制	大学・企業部会、参加大学担当者、事務局・読売新聞社担当者				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	400,000	400,000	0	読売新聞東京本社 寄附金400,000円
	支出	500,000	509,164	9,164	
	収支	△ 100,000	△ 109,164	△ 9,164	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第I事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来奨学金				
3. 事業趣旨	<p>多摩未来奨学金は、加盟機関や多摩地域の企業・団体等からの寄附金を原資とし、加盟大学・短期大学の学生を対象とした給付型の奨学金制度である。</p> <p>ネットワーク多摩の加盟大学・短期大学で学ぶ学生を、産官学（職員、教員、社員等）が協働し、多摩地域の活性化を目的とした活動等（多摩未来奨学生プロジェクト）を通して育成することを目的とする。また、資金を拠出していただいた企業・団体等にとってもメリットが得られ、大学にとっても有為な人材を社会に送り出す手立てとなる制度となることを目指す。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>【平成29年度多摩未来奨学金について】</p> <p>◆募集状況 平成29年度の多摩未来奨学金は制度の見直しを行い学生募集を行わなかった。</p> <p>◆制度改訂 新制度のために多摩未来奨学金委員会を立ち上げ、同委員会を開催した。 開催日：H28.10.25、H28.11.17、H28.12.27、H29.2.21、H29.5.11、H29.7.27 委員数：委員5名、アドバイザー1名、事務局3名</p> <p>◆改訂結果 加盟大学の学生、多摩の非加盟大学の学生、多摩在住の学生を対象とする。四年制の大学（学部）で当該年度において2年生及び3年生を対象とする。経済的に修学支援を必要とする成績優秀（GPA3.0以上）な学生とする。これまでのような多摩未来奨学生プロジェクト活動は行わない。平成30年度生を奨学生5期生として募集し平成30年5月に採用を決定する。給付金額30万円/年を2期に分割して支給し、募集人数は年度毎に決める。</p> <p>【平成28年度 4期生多摩未来奨学生プロジェクト】</p> <p>◆採用状況 採用学生24名（11大学）、修了学生22名（2名は後期辞退）</p> <p>◆集合研修 平成29年2月9日（木） 明星大学（28号館206教室） 研修講師：明星大学、大森教授 社長講演：京西テクノス 白井社長</p> <p>◆集合研修 平成29年4月22日（土） 明星大学（28号館206教室） 研修講師：明星大学、榎本教授 社長講演：キャリア・マム 堤社長</p> <p>◆中間発表会 平成29年8月25日（金） 明星大学（28号館プレゼンルーム）</p> <p>◆提言発表会 平成29年12月3日（日） 明星大学（32号館108教室）</p> <p>◆提言報告書 平成30年2月23日（金） 印刷注文発注予定</p> <p>【平成30年度多摩未来奨学金（5期生）について】</p> <p>◆募集開始 平成30年3月1日 ◆募集人数 25名前後</p> <p>◆募集期限 平成30年5月7日 ◆給付金額 30万円（前期、後期に分割支給）</p> <p>◆採用決定 平成30年5月29日 ◆交付式 平成30年6月9日</p> <p>◆活動内容 ネットワーク多摩のイベント参加、および会食懇談会（8月予定）</p>				
5. 評価	<p>平成28年度の奨学生4期生は所定の活動を行い提言発表会を行ったが、学生らしい発表であったとする意見とは別に、完成度が不足していると指摘するアンケート評価もあった。また、後期においてはコーディネーター1名の交代、奨学生2名の辞退者を余儀なくされた状況であった。こうした状況を予見し、本年においては昨年度末から奨学金検討委員会を立ち上げて、奨学金制度の改訂を進めてきた。</p> <p>平成30年度（募集開始は3月、採用決定は5月）は前述4に記載した新制度の元で奨学金事業を行う。なお、平成29年度は奨学生の採用実績がないので、文部科学省の補助金の申請は行わなかった。また、本年度の寄附金収入は平成30年度の採用者に充当する。</p>				
6. 執行体制	多摩未来奨学生コーディネーター、多摩未来奨学金委員会（H28～H29）、事務局奨学金担当				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差額	備考
	繰越金	5,628,420	5,628,420	0	
	収入	8,500,000	6,241,199	△ 2,258,801	補助金：申請なし
	支出	6,470,000	5,486,340	△ 983,660	4期生 奨学金給付額3,300,000円 5期生 奨学金給付額 0円
	合計	7,658,420	6,383,279	△ 1,275,141	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第I事業 大学間連携事業				
2. 事業名	就職支援事業				
3. 事業趣旨	大学の未内定卒業生が社会問題となる中、地域中小企業における大学卒業者の採用は困難な状況にある。この就職ミスマッチ問題を解消するために、就職説明会の実施、インターンシップ支援やワークプレイスメントの推進を行う。				
4. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターンシップ支援 社会へ出ることの意義を基軸とした授業及びインターンシップの実施 ◆ワークプレイスメントの実施 学生情報センターと連携してワークプレイスメントの実施。 ◆就業力アップ支援の実施 （株立飛ホールディングスから受託した、「アリーナ立川立飛」の実証的調査業務を学生がアンケート調査から分析、報告書作成までを行うことにより就業力を養う。 ◆就職説明会の周知 （公財）東京しごと財団開催の就職説明会への後援の実施 4月26日 京王プラザホテル多摩 5月24日 京王プラザホテル八王子 7月 3日 立川グランドホテル 9月 5日 京王プラザホテル八王子 2月14日 立川グランドホテル 				
5. 評価	新卒の就職環境は、改善されてきているものの、大学等における就職、地域企業における採用は重要な課題であり、就職支援事業としての活動は十分であるといえない。多摩未来奨学金などにより繋がりのできた地域企業の採用情報の収集と、大学等への提供によるマッチング、地域企業へのインターンシップ等への取り組みをなどを進めることで、事業の活性化を図っていく必要がある。				
6. 執行体制	（株）ナジック・アイ・サポート、事務局				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	7,560,000	7,605,450	45,450	（株）立飛ホールディングス 委託金7,560,000円
	支出	6,203,000	6,082,118	△ 120,882	
	収支	1,357,000	1,523,332	166,332	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第I事業 大学間連携事業				
2. 事業名	学生生活支援事業				
3. 事業趣旨	<p>新入生・在校生を対象とした「一人暮らしの学生のトータルケア」を、活動拠点AGORA立川にて開催する。</p>				
4. 事業内容・実績	<p>一人暮らしのトータルケア事業</p> <p>◆事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住居情報の提供 2. 加盟行政が提供する地域生活情報 3. 学生による学校情報やアルバイトのアドバイス <p>◆実績</p> <ol style="list-style-type: none"> ①住居情報の提供 決定件数・・・15大学122件（平成29年12月31日現在） ②地域生活情報、学校やアルバイト情報の提供 一人暮らし学内相談会・・・6大学延べ21回 （平成29年12月31日まで） 5大学延べ79回 （平成30年1月1日～3月31日までの予定） 				
5. 評価	<p>昨年度に比べ、加盟大学ごとにばらつきはあるものの、全体的には微増。 今後、18歳人口の減少と、各大学の寮の整備状況により、利用学生数も減少することが想定されるが、まだ相当数のニーズはあるため、継続すべき事業と思慮。</p>				
6. 執行体制	<p>㈱学生情報センター、事務局</p>				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	100,000	1,300	△ 98,700	
	収支	△ 100,000	△ 1,300	98,700	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第I事業 大学間連携事業				
2. 事業名	第4回多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション2017				
3. 事業趣旨	地域コミュニティや企業、商店街など多摩地域が元気で新たなあり方を求める。今の魅力と課題をフィールドワークによって得たデータを分析し、発表する学生のまちづくりコンペ。その研究成果を行政や事業者らの前で発表して優秀な提案に賞を贈る。				
4. 事業内容・実績	<p>◆参加資格 教員の指導の下で活動するゼミ団体、個人グループ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申込 : 11大学24団体がエントリーを行った。 ・応募テーマ: 多摩の元気!学生プロジェクト発信 <p>◆実施概要 【選考会】発表時間は10分(タイムオーバーは2点減点)、質疑応答5分 【本選】発表時間は15分(タイムオーバーは2点減点)、質疑応答5分 採点は、選考会、本選とも50点満点</p> <p>◆選考会 9月8日(土)明星大学で行い3教室に分けそれぞれ19人(行政8名、企業10名大学教授1名)の審査委員で行った。結果6団体が本選に出場。発表者を含む約180人が見学した。</p> <p>◆本選 12月16日(土)国営昭和記念公園花みどり文化センターで行った。審査委員は自治体、企業役員ら6名。学生・市民を含む90人が見学した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞 創価大学 安田ゼミ チームACT 「記憶をずっと、笑顔をもっと」 ・優秀賞 東京経済大学 山本ゼミ 御朱印班 「村山×寺×御朱印」 電気通信大学 西野ゼミ 「コミュニケーションロボットの開発を通じて地域活性化」 ・奨励賞 実践女子大学 チームトリプルC 「持続可能なコミュニティカフェの展開」 東京経済大学 山本ゼミ 東大和市班 「ひがしやまとの食の今昔物語」 中央大学 細野ゼミ 「立川をより魅力的にするためにららぼーと立川立飛がとるべき戦略」 <p>・各会場は、明星大学、国営昭和記念公園にご協力していただいた。</p>				
5. 評価	当コンペには11大学24団体がエントリーを行い、4回目にして最多のエントリー数であった。年々レベルの高いプレゼンが実施され、選考会・本選を通じて企業・行政がコラボして事業展開のきっかけを提供できた。今後、より多くの大学から参加を促し、多摩地域活性化に貢献できるよう注目度の高いコンペへと成長させていきたい。				
6. 執行体制	事務局				
7. 事業収支(単位:円)		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	650,000	673,513	23,513	
	収支	△ 650,000	△ 673,513	△ 23,513	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	全国大学コンソーシアムの展開				
3. 事業趣旨	全国大学コンソーシアム協議会の研究フォーラムに参加し、交流、情報交換、参考事例の収集を行い、本法人の周知と事業活動を紹介する。				
4. 事業内容・実績	<p>◆全国大学コンソーシアム協議会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年6月18日 第1回運営委員会（大学コンソーシアム京都） ・平成29年10月7日、8日 第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム （沖縄科学技術大学院大学OIST） テーマ「大学コンソーシアムとボランティア」 <p>基調講演：「世界の平和と開発を推進するユースボランティア」 国連ボランティア事務局長 Mr.Olivier Adam</p> <p>講演Ⅰ：「みんな地球に生きるひと」歌手・教育博士 アグネスチャン 講演Ⅱ：「OISTと日本の将来について」 沖縄科学技術大学院大学学長 Dr.PeterGruss</p> <p>シンポジウム：シンポジスト Mr.Olivier Adam氏（国連ボランティア事務局長） アグネスチャン氏（歌手・教育博士） 中村安秀氏（大阪大学名誉教授国際ボランティア学会会長） 木村泰政氏（国連児童基金東京事務所代表） 布村幸彦氏（公財東京オリンピックパラリンピック競技大会組織 委員会副事務総長） 今井絢一氏（関西学院大学社会学部4年生国連ユースボランティア）</p> <p>分科会1.「持続可能な発展と環境法政策」 2.「ボランティアリズムによる人づくり」 3.「産学の『連携』から『共創』へ」 4.「地域貢献とボランティア」 5.「災害時に活躍できる学生ボランティア育成の現状と展望」</p> <p>研究フォーラムへは全国から約252名、分科会へは約107名が参加した。 ネットワーク多摩では、第4分科会を担当した。（参加者約27名） 報告者：細野助博氏（専務理事 中央大学教授） 西浦定継氏（常務理事 明星大学教授） 糸久正人氏（常務理事 法政大学准教授） コーディネーター：根本忠宣（常務理事 中央大学教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月7日 総会（沖縄科学技術大学院大学） ・平成29年10月8日 第2回運営委員会（沖縄科学技術大学院大学） 				
5. 評価	本法人が担当した分科会のアンケート結果から、満足・やや満足が97%を占め、研究交流フォーラムにおける分科会発表については参加者からの満足度は高かったといえる。今後も本法人の取り組みの紹介や、全国の大学コンソーシアムにおける事例の情報収集を行い、本法人の活動に活かしていく。				
6. 執行体制	全国大学コンソーシアム協議会幹事(小川会長)、運営委員(森岡事務局長)、事務局				
7. 事業収支(単位:円)		計画	実績	差異	備考
	収入	150,000	165,000	15,000	全国大学コンソーシアム協議会 交通費補助
	支出	550,000	436,294	△ 113,706	
	収支	△ 400,000	△ 271,294	128,706	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第 I 事業 大学間連携事業				
2. 事業名	多摩未来創造フォーラム (第7回多摩地域大学理事長・学長会議)				
3. 事業趣旨	第7回目の開催となる「多摩地域の理事長・学長会議」・「多摩未来創造フォーラム」としてテーマを「多摩地域グローバル化の現状と将来」として開催する。それは、多摩地域に根付く産業・教育機関が一体となって、グローバルな視点から多摩地域の将来を考えるとことである。多摩地域に集積された知を最大限に活用して、多摩の今後の方向を探る機会とするものである。				
4. 事業内容・実績	<p>◆会議名 多摩未来創造フォーラム（～多摩地域グローバル化の現状と将来～）</p> <p>◆開催日 平成29年6月3日（土） 13:00～19:00（帝京大学八王子キャンパス ソラティオスクエア）</p> <p>◆基調講演 山越厚志氏（経団連米国事務所 所長） 「アメリカから何を学ぶのか？」～米国諸州訪問から見えてくるもの～</p> <p><分科会></p> <p>・第1分科会「大学のグローバル戦略」 コーディネーター：川名明夫氏 拓殖大学学長 パネリスト：馬場善久氏（創価大学学長） 沖永佳史氏（帝京大学理事長・学長） 加藤俊一氏（中央大学副学長） 畑山浩明氏（桜美林大学副学長） 石川幸一氏（亜細亜大学アジア研究所教授・所長）</p> <p>・第2分科会「企業のグローバル戦略」 コーディネーター：細野助博氏 ネットワーク多摩専務理事・中央大学教授 パネリスト：田中一史氏（独）日本貿易復興機構 総括審議役（国際展開支援担当） 田辺隆一郎氏（八王子商工会議所 会頭） 八木敏郎氏（多摩信用金庫 理事長） 飯田哲郎氏 東洋システム（株）代表取締役社長 寒河江麗氏 東京海上日動火災（株）課長代理</p> <p><クロージングセッション>分科会コーディネーターによる報告 <懇親会></p> <p>【成果】参加数：31機関（加盟24、非加盟7）、参加者134名（登壇者含む、事務局を除く）</p>				
5. 評価	基調講演の内容についてはグローバル化への制度と対応状況、地方創生の考え方、グローバル化の多角的意見、経団連の取り組みが理解できる内容であった。分科会では大学・企業のトップがそれぞれ視点の話がまとめて聞ける事が興味深く、非常に楽しく有意義であった。多摩地域の連携の必要性は誰もが認識しているが、こうした多方面の立場が交流する機会を作ることは、それぞれが単独では不可能なことであり、多摩の具体的な戦略を考え、現実界での交流が課題解決の糸口となるためにも継続が切望される。また、運営としては配布資料、会場問合せ、誘導への方法、広報連絡方法に改善の余地が見られた。				
6. 執行体制	ネットワーク多摩事務局				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	707,000	786,198	79,198	
	収支	△ 707,000	△ 786,198	△ 79,198	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	知のミュージアム 多摩・武蔵野検定				
3. 事業趣旨	多摩・武蔵野地域に親しむきっかけづくりに多摩・武蔵野検定（タマケン）を生かして多摩地域の特徴・魅力を再発見し、郷土愛を育み、ひいては地域のリーダーとして活躍し、まちづくりにつなげる人材を醸成する。				
4. 事業内容・実績	<p>◆多摩・武蔵野検定試験 11月19日、明星大学23号館。受検41人（当日欠席7人、申込48人） 受検者内訳：マスター4級7人（合格7人）、3級16人（合格6人）、2級17人（合格5人）、1級1人（合格0人）。全体の合格率38%。</p> <p>◆タマケン10周年記念 合格者の集い 10月15日、八王子市高尾町のTAKA0599MUSEUM。 講演：立川柳田国男を読む会・山口茂記氏。参加者34人。会費500円。</p> <p>◆ガイドツアー「多摩めぐり30プラス～多摩丘陵」 会費各1,000円。ガイドは合格者。 ・町田市 4月8日。鶴見川源流を訪ねる。参加21人。 ・町田市 6月10日。太古の地層が露出する大地に刻む先人の息遣い。参加16人。 ・八王子市 7月1日。絹の道と鍮水商人の里。参加23人。 ・多摩市 11月12日。天守台から“国”を一望し木造隨身倚造を見る。参加26人。 ・稲城市 12月2日。谷戸の空を舞うチョウゲンボウ 希少な弥生時代遺跡と大木のカヤ。参加18人。 ・町田市 12月17日。鎌倉往還が映す朝廷・武家政治のかたちと風。参加15人。</p> <p>◆ガイドツアー「多摩めぐり30プラス～日本初の郊外公園100年 井の頭恩賜公園」 10月29日。講演：東京都西部公園緑地事務所管理担当・宮崎猛氏、井の頭自然文化園長・日橋一昭氏。ガイドは合格者。参加15人。参加費1000円。</p> <p>◆立川市立小学校5年生 市民科授業タマケン・Jr級～立川市検定受検 12月15日まで20校中15校1106人が受検（在籍数1118人）。最高点100点、最低点12点。合否判定なし。ブロンズ賞（～40点）83人（7.5%）、シルバー賞（41～70点）681人（61.6%）、ゴールド賞（71～100点）342人（30.9%）。2月23日まで残り5校302人が受検予定。</p> <p>◆立川市立第一・第九中学校1年生が市民科授業でタマケン・マスター4級～立川市検定受検2月16日までに両校216人が受検。</p> <p>◆八王子市立由井第三小学校 学校運営協議会主催でタマケンJr検定～八王子市検定実施1月27日、同小学校で。児童4人、父母3人。</p> <p>◆明星大学「夏休み科学体験教室」出展 7月23日。日野市を中心にしたタマケン模擬問題を出題。200人以上が楽しんだ。</p>				
5. 評価	受検者の減少を食い止めることが課題。立川市公立中学校が郷土学習の一環として2019年度からタマケンを実施。全9校約1200人の予定。				
6. 執行体制	・実行委員会：5人 ・学術委員会：9人 ・主催：ネットワーク多摩 ・後援：東京都、多摩30市町村				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	550,000	428,619	△ 121,381	
	支出	650,000	985,806	335,806	
	収支	△ 100,000	△ 557,187	△ 457,187	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第Ⅱ事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	多摩地域行政連携事業「政策スクール2017」				
3. 事業趣旨	全国にみられるように多摩地域の自治体でも高齢社会と人口減少という大きな課題を抱える中、これからの行政サービスの在り方と多摩地域をさらに活気づける手立てを探る目的で行政職員と若者の発想で切り込んだワークショップで新しい多摩を提言する。				
4. 事業内容・実績	<p>◆政策スクール2017年10月13日（金）9時～17時、東京市町村職員研修所（府中市新町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「シティプロモーションに欠かせないもの」電通コミュニケーション・プランナー 越智一仁さん ・地元創生におけるコミュニケーションとアイデアについて、「行動」「思考」「視点」が大事で、地方の魅力の掘り起こし方をどうすればいいか、語った。自治体PR動画の先駆けとなった宮崎県小林市の移住促進PRムービー「ンダモシタン小林」の制作過程を例に上げて具体的に話した。 ・パネルディスカッション～基調講演者・ワークショップのファシリテーターがパネリストになった。 ・WS①「立地担当者が魅力を感じるシティプロモーション」ファシリテーター：日本立地センター主任研究員・久保亨さん WS参加：職員3人、学生2人 「地域の知名度向上」「地域の活性化」が最終目的であることからポジティブな面のみならず、ネガティブな点も併せて地域理解を深める必要がある。そうした観点から多摩地域各自治体の共通項を洗い出して、シティプロモーションの舞台を福生市に絞ってアピールした。プロモーション・タイトルは「和と洋がふっさふさ」。福生のアメリカンな雰囲気と酒蔵が象徴するように「和」を連動させた。 WS②「地域活性化に必要なシティプロモーション」ファシリテーター：中央大学法学部教授・工藤裕子さん WS参加：職員7人、学生2人 多摩地域全体を単位としてとらえ、交通の不便さ、働く場が少なく若者が流出して人口減少になっていると分析した。交通問題では各自治体の福祉バスの多機能化を図る。雇用の課題にはインキュベーションセンターを設け、創業支援とコミュニティビジネスを育てて解決する。ここでは小中高校、大学生に地域資源を学ぶ機会を作り、ワークショップを展開する。事業を継続してブランド化して注目率を高める戦略を提言した。 WS③「観光ツーリズム振興が支えるシティプロモーション」ファシリテーター：日本酒蔵ツーリズム推進協議会副会長・宮坂不二生さん WS参加：職員5人、学生1人 農業を基調に広域多摩の交流人口を増やすことを提言。その対象は都心在住者と外国人。新鮮作物を食べる農業体験には子供と家族がくる。外国人は宿泊する。農家が行う通信販売は、農業体験で生産者と消費者が信頼していることから継続性が見込まれる。事業主体には多様なセクターが連携・協働することで効果が望める。 				
5. 評価	政策スクール校長である前日野市長・馬場弘融さんは「『毒にも薬にもならないものはつくらない』という越智さんの制作姿勢とポリシーで仕上がったムービーに『思わずひとが動いちゃう』ことになり、参考になりました。地元を愛する気持ち、地元を考えることの大切さを改めて感じました。提言内容はどれも的を得ていて、中には市が飛びつきそうなアイキャッチがあり、さらにととても良い発言だったのは『信頼し共感を呼ぶ必要がある』と訴えられたこと。このスクールが仕掛けの一端になればいいと実感しました」と講評した。				
6. 執行体制	主催 ネットワーク多摩 ・後援：公益財団法人東京市町村自治調査会 運営：ネットワーク多摩 行政部会				
7. 事業収支（単位：円）	計画	実績	差異	備考	
	収入	0	0	0	
	支出	270,000	244,818	△ 25,182	
	収支	△ 270,000	△ 244,818	25,182	

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩
平成29年度 事業報告書

1. 事業計画名	第II事業 地域人材育成と教育力アップ事業				
2. 事業名	新任大学教員研修				
3. 事業趣旨	大学入試改革と呼応して、従来は一方的な知識の伝達・注入に偏りがちだった高校や大学での学びに、「生徒・学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見出していくアクティブ・ラーニング」の導入が求められています。本セミナーでは、参加者及び講師との交流を通してアクティブ・ラーニングを体験的に学び、それぞれの教育実践につなげることを目的としている。				
4. 事業内容・実績	<p>◆新任教員研修セミナー</p> <p>実施日：平成29年9月4日（月）～6日（水） 場 所：大学セミナーハウス</p> <p>アイスブレイクⅠ：明星大学人文学部教授 菊池滋夫氏 アイスブレイクⅡ：「アクティブ・ラーニングに向けた関係性作り」 （SPAプログラム） 大学セミナーハウス所属ファシリテーター 佐藤順子氏 講演：「クロス・バウンダリー・コミュニケーションの重要性」 アクティブ・ラーニング講座① 「学生参加型授業の実践」 コーディネーター：明星大学人文学部教授 佐藤滋夫氏 アクティブ・ラーニング講座② 「多様な学習方法を前提とした効果的な授業運営方法」 コーディネーター：桜美林大学リベラルアーツ群教授 荒木晶子氏 アクティブ・ラーニング講座③ 「問題意識の共有と授業改善」 コーディネーター：電気通信大学情報理工学部教授 史 傑氏</p> <p>シンポジウム：「現代大学教育論」 1. 学生の参加を引き出す学習環境構築の取り組み 桜美林大学ビジネスマネジメント学群講師 有賀清一氏 2. 学習支援に果たす図書館の役割 帝京大学経済学部教授 江夏由樹氏 3. 対応が困難な学生理解のために ―合理的配慮を踏まえて― 明星学苑法人本部企画部課長 村山光子氏</p> <p>参加者：14大学33名（男22名、女11名）</p>				
5. 評価	各大学の新任教員の方が、日々の授業で感じている問題点や、それらに対する授業内での解決方法や工夫などが共有できた。大学における様々な教育実践の形を学ぶことができた。特に学生への学習指導の新しい取り組み、及び「従来型」の大学教育の課題と利点について考える機会となった。				
6. 執行体制	主催：公益財団法人大学セミナーハウス 共催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩				
7. 事業収支（単位：円）		計画	実績	差異	備考
	収入	0	0	0	
	支出	0	0	0	
	収支	0	0	0	